

学校と地域との連携による住まい・まちづくり学習に対する 家庭科教師の意識

○金川久子* 田中 勝** (*豊橋技術科学大・院 **山梨大)

〈目的〉近年、住まい・まちづくり学習には、様々な試みがみられるようになってきた。たとえば学校教育では、地域性をいかした住教育プログラム・教材開発や出前講座の活用、ワークショップなど参加型手法の導入が進められている。また、学校教育と社会教育との連携を強化し、生涯学習の視点から、住まい・まちづくり教育を考えていこうとするアプローチも出てきている。住環境やまちづくりにまで視野を広げ、家庭、地域、行政、専門家、NPOなどと連携しながら、総合的に住まい・まちづくり学習を展開していく時代になってきたといえよう。本研究は、学校と地域との連携による住まい・まちづくり教育のあり方を考えていくために、家庭科担当教師へのアンケート調査結果から、他教科や総合的学習を活用した住居学習の可能性や教師支援について検討することを目的としている。

〈方法〉平成10年度及び12年度に山梨県内の高等学校家庭科担当教師を対象に実施した住教育に関するアンケート調査結果を用いる。

〈結果〉①総合的学習との連携：身近な地域を題材に住宅や地球環境問題等について学習させたいと考えている。②他教科との連携：社会科、理科、保健と連携し、地域の歴史性・社会性などの視点から住まいや住文化を考えていこうとしている。③地域の人材活用：授業内容の広がりを期待し、メーカーなど「つくり手」との協力・連携を望む教師が約半数を占める。④地域性をいかした住教育実践：家庭科教師の92.7%が関心を持つが、実践しているのは17.5%に過ぎない。⑤教師支援：住教育勉強会への参加を希望する家庭科教師は多く、教材の共同開発や住宅見学等の活動を望んでいる。